

2010. 12. 20
日本野鳥の会こおりやま
代表 湯浅 孝子

2010年カッコウ調査報告（抜粋）

初夏の到来をさわやかな鳴き声で告げるカッコウ、この「カッコウ」を市の鳥に指定している郡山市に、いったい何羽ぐらいのカッコウが渡ってきているものか？ この疑問を調べ始めて16年になる。今年の結果がまとまりましたので報告します。

1、調査日時 2010年6月10日（木）午前7時～7時5分（5分間）

2、調査方法 郡山市内の小学校、中学校、高等学校、野鳥の会会員、その他調査に協力された市民にアンケート用紙を配布し、1の調査時間内にそれぞれのいた場所でカッコウの声を聞いたり、姿を確認できたかどうかを問うた。

3、アンケート数

	発送数	返送数
小学校	4580 枚	1810 枚
中学校	2400 枚	1810 枚
高等学校	2600 枚	1033 枚
会員・一般	360 枚	368 枚
計	10000 枚	5021 枚

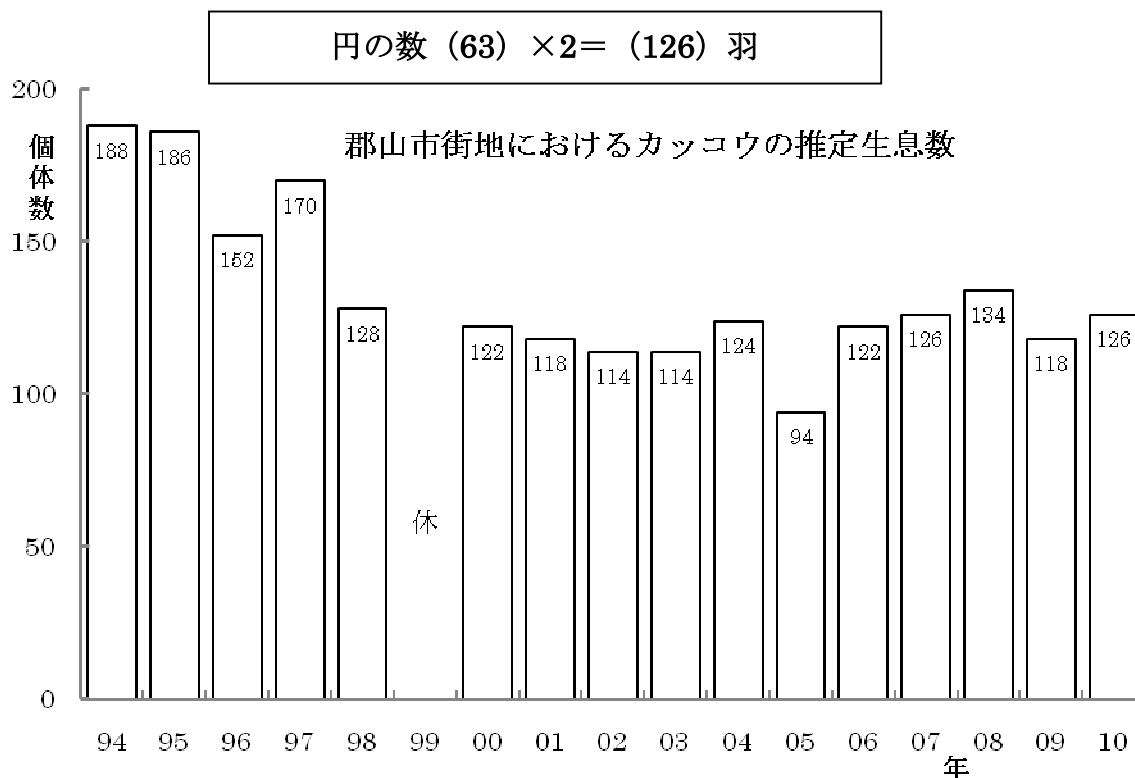
4、アンケート集計結果

回収アンケート数	5021 枚	
有効アンケート数	4663 枚	
内 調査時間内に鳴いた		382 枚 (8.2%)
" 鳴かなかった		4271 枚 (91.6%)
調査時間外には鳴いていた		1653 枚 (35.4%)

5、結果の処理方法

- I 確認地点を郡山市街地図（1/16000、1 /50000）上に打点する
- II カッコウの個体数推定方法
地図上の打点のうち、近い点は同一個体の鳴き声を複数の観察者が聞いた可能性があると考えられる。そのためカッコウの声の届く範囲を半径が次の円内と定め（市街中心部 300m、市街部 400m、郊外部 500m）その基準で描いた円内には、それぞれ最低1羽の雄のカッコウが居たと見なすこととした。縄張りを宣言し、メスへの求愛行動をしていたと考えられることから、円1つは1番（つがい）2羽のカッコウと推定する。

6、2010年度郡山市街地におけるカッコウの推定生息数



7、今年度の調査結果から

- ①上のグラフを見ると、基本的に2000年以降、カッコウの推定生息数には年毎の変動はあっても、ほぼ毎年120羽前後と大きな変化は無いと思われる。
 - ②駅前から市役所周辺を含む市の中心部では、カッコウの生息が極端に少なく、年々空桐化が進んでいるように見られる。
 - ③周辺部では、喜久田付近を含む高速道路の東側、及び桜木町付近の市の南東部では分布に増加傾向が見られる。
 - ④今年度は、調査日となった6月10日に、市内小学校高学年を対象とした行事（陸上競技会）が重なり、多くの学校の児童が参加、特に遠隔地の学校では、調査に支障があった。
 - ⑤また、今回もいくつかの学校で、アンケート用紙を校内で増し刷りされ、配布枚数以上のアンケートを寄せていただく等、積極的な協力をいただいた。特に今回、郡山市の生活環境課では、238枚ものアンケートについて独自アンケート呼び掛けてくださり、更に集計、分析の上、貴重な資料を添えていただく等、多大のご協力を頂いた。
- 以上この運動が回を重ねるごとに、理解が深まり、市民の間に定着しつつあることをうれしく思います。

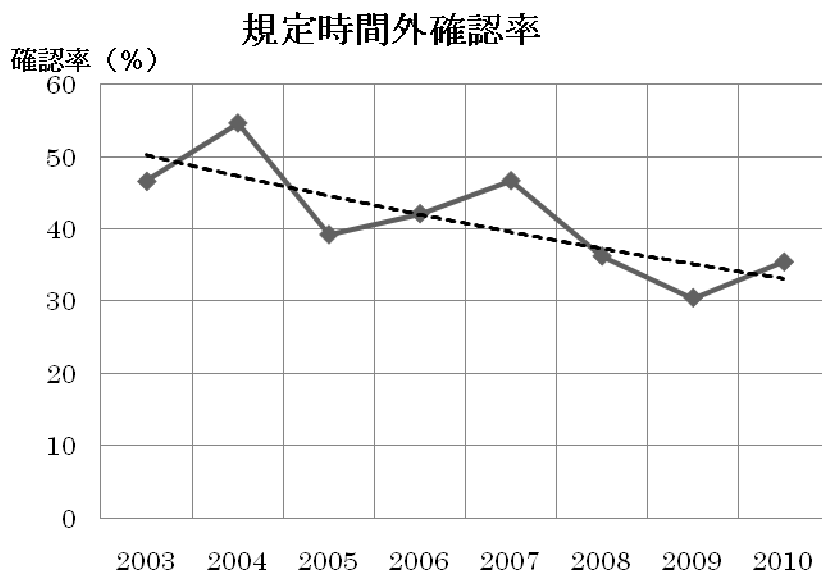
8、今後の検討課題

近年、いろいろな鳥が少なくなった、カッコウについても以前より声を聞かなくなったといった声をよく耳にします。このことと、今回の調査の結果はどう考えたら良いのか気になります。

この事に関し、今までのデータを再検討し、規定時間外には鳴いているという項目がどの様に経年変化しているかを見てみました。

(同じ設問で得られた過去8年間のアンケートの確認状況を%で示したもの)

調査年	返送アンケート数	時間内確認 (%)	時間外確認 (%)	推定個体数
2003	6198	15.7	46.6	114
2004	4378	12.8	54.7	124
2005	5142	7.2	39.2	94
2006	3508	10.9	42.1	122
2007	3693	13.5	46.7	126
2008	4748	10.3	36.2	134
2009	5673	9.1	30.4	118
2010	4663	8.2	35.4	126



このグラフで見る限り、調査時間外にカッコウの声を聞いたという人の数は年々減少傾向にあることは確実です。

このような形式を取る調査は、他にあまり例がなく、結果の処理についても科学的に正しいのかどうか常に考えながら進めてまいりました。

野鳥の生息数を調べるという非常に難しい課題に取り組んで16年、調査手法に関して更にいっそう検討を加え、意義ある調査にしてゆきたいと思えます。一方、この調査を通して児童生徒や父母、更に一般市民に、自然に対する関心を高めたという啓蒙活動の意義は大きかったと思えます。

今後も会員各位のご協力を切にお願い申し上げます。

ツバメの営巣調査について（おまけの調査）

3年前より、カッコウ調査に便乗して、私達人間の暮らしと密接な関係を持って生きるツバメについて、その営巣状況をアンケートに加えさせていただきました。

ツバメは、都市化の進行、建築物の構造、建材の変化に伴い、急激に巣作りが困難になっています。その様子が早くも現れています。

2008年	営巣率	37.2%
2009年	〃	34.2%
2010年	〃	29.3%

野鳥も人も地球の仲間、共に住みよい街を作るため皆で考えたいと思います。